

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

[基本事務事業名] 博物館事業(502)

[評価年月日] 平成12年11月22日

[主担当部課名] 教育委員会事務局 生涯学習課

[記入課名・課長名] 三重県立博物館 ・ 館長 伊藤久嗣

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策：文化スポーツの振興 (3)

施策：人と地域を支える文化の振興 (1)

総合計画の目標項目：総合計画の目標なし

波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策：(132) 文化的資産の継承と活用

(311) 多様な自然環境の保全・創出 (312) 生物の多様性の確保

(514) 科学技術交流の推進 (523) 魅力あるデジタル情報の提供

2 基本事務事業を巡る環境変化(過去 現状 将来)

(1) 国土開発や整備による、希少動物保護への関心や、鳥羽市の恐竜化石発見などによる、三重の自然や文化的資産への興味関心の高まり

(2) 学校における「総合的な学習の時間」のカリキュラム化

(3) 県内各博物館施設全体の入館者数の落ち込み

(4) デジタルミュージアム活動など博物館の新しい活動展開(収蔵資料のデジタル化、ホームページによる収蔵資料の公開など)

(5) 築47年になる県立博物館の老朽化(収蔵資料保管環境の問題、博物館活動の制限)

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図(何をどういう状態にしたのか)

(対象1) 三重の自然・文化・歴史に興味関心のある人。

(対象2) 三重の自然・文化・歴史に興味関心のない人。または、興味関心を持つ機会がない人。

(意図1) もっと、博物館活動を通じて三重の自然・文化・歴史に興味関心を深めてもらう。

関心の少ない県民へ、三重の自然・文化・歴史の良さを伝えてもらう。

(意図2) 博物館活動を通じて、三重の自然・文化・歴史に興味関心をもってもらおう。

3-(2) 成果指標名・成果指標式(総合計画の目標項目には*を付す)

- 指標名 博物館利用度

- 指標式

$$\frac{\text{当該年度入館者数} + \text{当該年度事業参加者数} + \text{当該年度ホームページ閲覧者数}}{\text{三重県総人口}} \times 100$$

変更後の成果指標名・成果指標式

なし

3-(3) 設定した成果指標に関する説明(指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

博物館利用度は入館者数のみだけで把握するものではなく、館外での活動への参加やインターネ

ットのアクセス数など全体から把握する必要があることから上記の指標を設定した。

指標動向に影響する要因として（１）博物館の機能が十分に発揮でき、県民にとって利用しやすい環境整備（新しい博物館を含む）にかかる財源（２）生涯学習ニーズに応えられる人材（学芸員など）（３）県民の財産である博物館資料を適切に保管・活用できるための収蔵庫等があげられる。

また、博物館利用度としては、収蔵資料価値、学校や県・市町村からの講師依頼、身近な疑問に関する問い合わせ、来館者の満足度などを加味すべきであるが、現状では把握が困難であるほか、調査には多大なコストがかかる（特に資料価値評価などは博物館のみでは困難）。現在の指標は再考を重ねる余地があり、博物館の活動成果を総合的に表す指標の作成を目指す。

3-(4) 結果(施策における2010年度の目標)

総合計画の目標なし

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度(H1 1年度)における基本事務事業の結果評価

前年度に行った内容と成果

- (1) さわれる展示の実施、ミニ企画展、野外などでの博物館教室、出前ミュージアム等を実施し、多くの入館者（参加者）があった。結果、前々年度より多くの県民に三重の自然・文化・歴史について発見（再発見）していただいた。
- (2) 老朽化の進む現在の県立博物館の適切な維持管理と並行し、新博物館建設に向けて「新しい博物館を考える懇話会」を実施し、県民に三重の自然・文化・歴史により興味関心をもっていただけるような施設、活動のあり方をまとめていただいた。結果、現在の県立博物館及び新しい博物館建設における活動を考える上で大変、有意義な報告をいただいた。
- (3) 県民に三重の自然・歴史・文化について興味関心を持ってもらうための基礎となる調査研究活動を実施した。特に鳥羽市で発見された恐竜化石については報告書作成に向けて外部の指導のもと調査を進め、その一部を県立博物館で展示を行った。
- (4) ホームページやポスター等を利用して、博物館活動について情報を発信し、少しでも多く県民に博物館について知ってもらえるよう活動した。結果、前々年度より入館者増につながるなど、多くの人に三重の自然・歴史・文化を知ってもらうきっかけとなった。

前年度に残った課題

- (1) 新博物館の活動について広い意見を得たが、教育委員会として十分にその意見をまとめてきていない。「いま、なぜ博物館が必要か」について整理し、明確にする必要がある。
- (2) 博物館法に基づく、博物館の基本的な活動（「調査研究」、「資料収集」など）が財政状況などから十分に実施できなかった。
- (3) 老朽化のため雨漏りなどの被害を受け、今後も収蔵資料への影響が懸念される。
- (4) 「総合的な学習の時間」を踏まえ学校との連携を展開する必要がある。

4-(2) 本年度(H1 2年度)における基本事務事業の見込み評価

本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

- (1) さわれる展示の実施、ミニ企画展、野外などでの博物館教室、出前ミュージアム等を実施し、前年度より多くの県民に三重の自然・文化・歴史について発見（再発見）してもらう。
- (2) 老朽化の進む現在の県立博物館の適切な維持管理、改修工事と並行し、新博物館建設に

向けて博物館建設・運営についてPFIなどの手法も含めた検討を行うとともに、県民に三重の自然・文化・歴史により興味関心をもってもらえる新博物館の基本構想を三重県としてまとめる。

- (3) 県民に三重の自然・歴史・文化について興味関心を持ってもらうための基礎となる調査研究活動を県民の協力のもと実施する。具体的には特に鳥羽市で発見された恐竜化石の種決定、県民参加型の県内メダカの生息調査、オオサンショウウオに関するアンケート調査、養蚕農家の聞き取り調査などを行い、その結果を公表することで三重の自然・歴史・文化を再発見していただくことが可能と思われる。
- (4) 情報発信の方法として、昨年実施したもののほかに垂れ幕の設置、学校向け夏休み向け行事一覧の配布などを行い、少しでも多く県民に（特に学校を中心に）博物館について知ってもらえるよう活動展開を行う。成果として前年度以上の入館が見込まれる。

本年度残るとされる課題

- (1) 新博物館の内容について広い意見を得たが財政状況などから建設に向けての取り組みの遅れが懸念される。
- (2) 博物館法に基づく、博物館の基本的な活動（「調査研究」、「資料収集」など）が財政状況などから十分に実施できない。
- (3) 老朽化のために突発的な改修工事が必要となっているため、今後も収蔵資料や入館者及び職場環境への影響が懸念される。
- (4) 「総合的な学習の時間」を踏まえ学校との連携を展開する必要がある。

5 基本事務事業の改革方向

- (1) 現博物館では展示スペースなどの問題があり収蔵資料を十分に活かしていない。自然体験などの不足、学級崩壊が囁かれる「今の子どもたち」を対象とした新博物館を早急に整備し、恐竜化石等の収蔵資料を多くの子どもたちに見てもらうほか、三重の自然や文化のよさに触れてもらう。
- (2) 財源難の現状を踏まえ、県立博物館の官（例えば、資料保管、学芸員の設置など）と民（例えば、企画展やイベントの開催、ミュージアムショップなど）の役割について整理し、PFI手法による新博物館整備を具体的に検討する。
- (3) 現在の県民サービスのみを考えるのではなく、県民の貴重な財産を預かる博物館としては、適切な保管環境を整備し、「未来の県民へのサービス」という視点で自然や歴史、文化を率先して継承していく。
- (4) センター博物館（仮称）の際に、現在の博物館活動を大幅に縮小化し、博物館整備に力点を置いた結果、県民の博物館活動の認識が低下し、入館者数の減少などにつながった。その反省に立ち、現博物館でできる限りの活動を展開、広報した結果、入館者数が再び増加している。今後も現在の活動と新博物館整備のバランスを保った事業展開を続ける。
- (5) 県立博物館のみの活動には限界がある。そのためにも県内各地域にある博物館施設が核となった全県的なネットワーク化を図るとともに、県立博物館の役割についてきっちりとした位置づけを行う。（例えば歴史資料などは「各地域」の文化や歴史の視点、自然系資料については「県」という広い視点で活動を行う必要がある）
- (6) 「博物館」というものへの理解がまだまだ少ない。生徒が分からないことを「学校」で先生に尋ねるように、博物館も県民がもつ三重の自然・文化・歴史に関する疑問や関心について調査研究や展示、博物館教室で答えて行くことで、「博物館は社会の学校」、「博物館はみんなにとっての学校」であると広く認識してもらうように活動を進めていく。

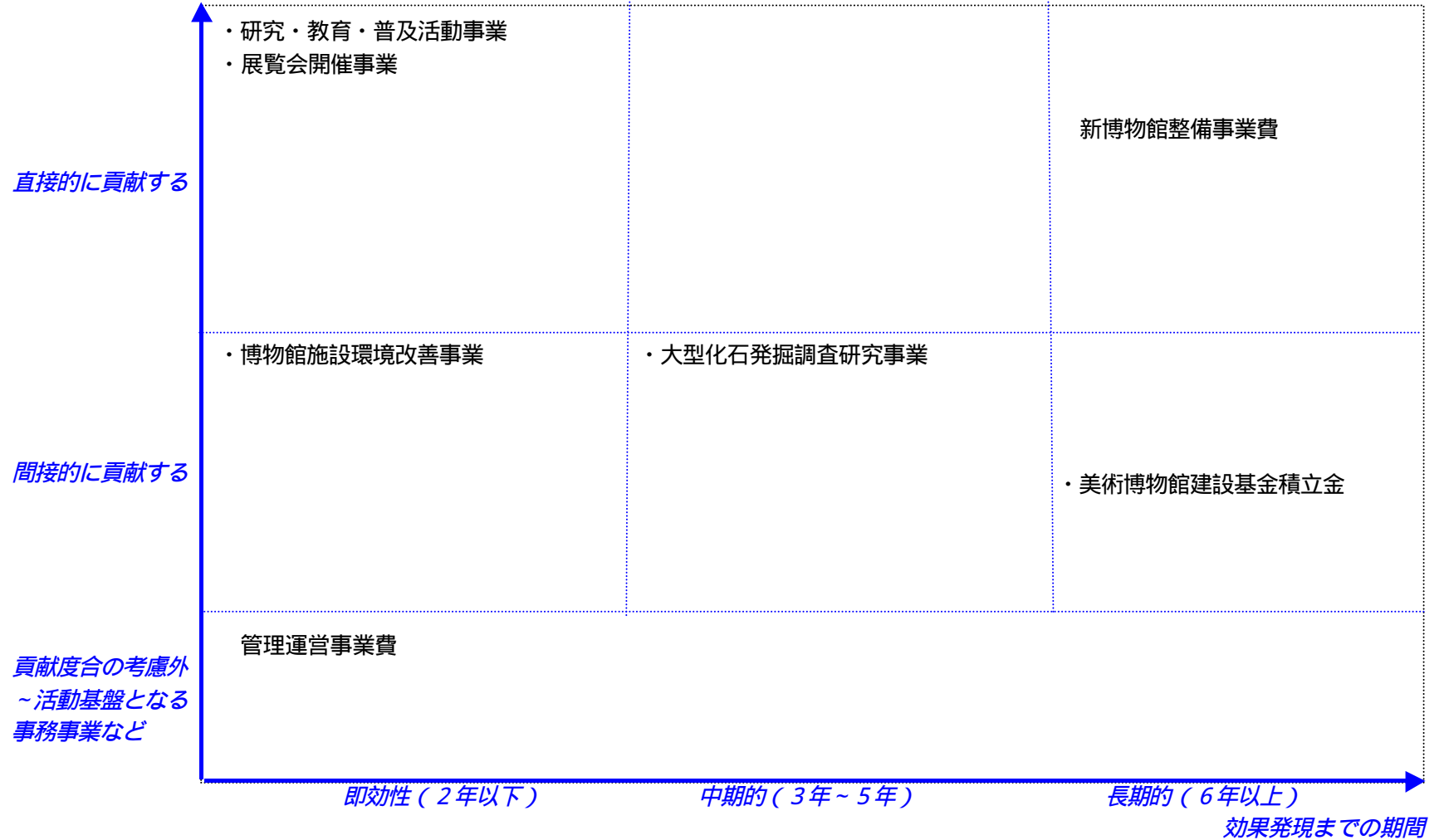
6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等(千円)	必要概算 コスト(千円)
	目 標	実 績		所要時間(時間)	
前々年度 (H10年度)	0.55	0.45		64,174	127,414
				27,898	
前年度 (H11年度)	0.61	0.77		54,153	106,663
				12,653	
本年度 (H12年度)	0.74	0.72		46,728	99,744
				12,653	
本年度補正後 (H12年度)				+ (or)	+ (or)
				+ (or)	
翌年度 (H13年度)	0.74			53,783	106,799
				12,653	
計画目標年次 (H 年度)					

7 翌年度(H1 3年度)の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM: Project Portfolio Matrix)

<必要概算コスト： 5億円以上 ~ 1億円 ~ 5千万 ~ 1千万 ・ 1千万未満 * 休止・廃止>

基本事務事業の成果向上への貢献度合



各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細

新規事務事業には、事務事業名に(新)を付す

事務事業名 (担課)	成果指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 (千円)	予算額 前年度比 (±千円)	13年度 所要時間 (時間)	所要時間 前年度比 (±時間)
新博物館整備事業費 (県立博物館)	・博物館の活用度 ・事業進捗度	老朽化が著しい県立博物館に代わる新博物館整備について、PFIによる建設・運営について具体的な検討を行う。	21,974	+7,507	3,035	758
大型化石発掘調査研究 事業費 (県立博物館)	・恐竜化石にかか る普及活動への 関心度	平成8年に鳥羽市で発見された恐竜化石について広く県民に知ってもらうために講演会、展覧会などを実施する。	8,408	3,979	633	632
美術博物館建設基金 積立金 (県立博物館)	(内部事務のため 該当無し)	美術博物館の建設などに要する経費の財源に充てるために、基金の運用益を積み立てる(内部事務・生涯学習課対応)	2,839	+1,989	0	0
管理運営費 (県立博物館)	・施設管理・収蔵 品管理度	現博物館の適正な管理運営を行うとともに、県内の博物館活動活性化のために三重県博物館協会事業へ補助を行う。	11,127	+362	2,531	0
展覧会開催事業費 (県立博物館)	・展覧会参加度 ・データベース化 推進度	博物館収蔵資料を中心に常設展、ミニ企画展、出前ミュージアムを開催する。収蔵資料のデータベース化を進める。	3,746	196	2,531	0
研究・教育・普及活動 事業費 (県立博物館)	・普及事業参加度 ・資料整備・貸出 度	博物館活動の基礎となる調査研究活動や様々なテーマの教育普及行事の開催、剥製・骨格標本作成などの活動を行う。	5,089	1,437	3,163	0
博物館施設環境改善 事業費 (県立博物館)	施設管理・収蔵品 管理度	老朽化の著しい現博物館への入館者の安全性や資料保管の適正化を高めることを考慮して、危険個所の修繕や、適切な資料保管環境の整備を行う。	600	15	127	126